

# 公益社団法人かしま青年会議所

## 2019年度理事長所信

公益社団法人かしま青年会議所  
第22代 理事長 野口 智広

### 【はじめに】

私は26歳の時に、高い志や目的など持たずに、ただなんとなく青年会議所に入会し、入会後も、意義や素晴らしさが分からず嫌々、例会や委員会に参加していたのを覚えています。やればやるほど思い悩み、本気で退会を考えた事も何度もありました。そんな中、東日本大震災が起こり、このかしま地域にも大きな爪痕を残したのです。あの類を見ない天災に見舞われ自身も窮地に立たされているにもかかわらず、自らの利より地域のため、人のために命をかけて行動するメンバーの姿、侃侃諤諤と未来の子供達や地域のために本気で語り合うメンバー達、本気で創り上げた事業を達成した時に仲間と流す涙を目の当たりにしました。そこには、「絶対にやってやる！」という強い想いがありました。私は、誰かのために行動を起す尊さ、本気でやれば何でも出来るということ、そして、「世のため人のために自分のために」ということを知り、いつのまにか自分という人間が成長しているのを感じ、青年会議所の活動に没頭している自分がいました。

私にとって青年会議所はすべてではありません。しかし、青年会議所がなければ今の私はいないと思います。青年会議所を通して、強烈な原体験を繰り返し意識と行動が変わりました。返事は「YES」と「はい」しかありません。そうでなければ、原体験を得る事も自己成長にも繋がりません。成功は約束されてはいないが、成長は約束されているのです。大切な事は、「とにかく、一遍やってみよう」という気概と覚悟です。

またその反面、現在の青年会議所に対する社会的評価は、決して心地よいものばかりではありません。「酒飲みばかり」「どうせ、失敗するだろう」「仕事もしないでJCばかり」そんな声が存在することを真摯に受け止めるとともに、会社や家族の多くの支援があって青年会議所の活動が出来ていることも忘れてはなりません。青年である我々は、感謝と気概を兼ね備え、未来に大きな夢を描き、失敗を恐れず、仲間とともに行動を起す、破天荒な青年でありたいと思います。破天荒とは「今まで誰もが成し遂げなかったことをすること」です。我々青年に求められていることは、何事にも綺麗さや完璧を求める姿ではなく、青年らしく汗をかき、失敗を恐れず果敢に挑戦していくことなのです。

そして、このかしま地域にも、我々が生きていくにあたり必ずや解決していかなければならない問題が存在しています。その問題を解決していくためにも、裏付けのされた根拠をもとに、決して妥協することなく最良の方法を考え抜き、想いを持って実践していくことが重要です。そして、どんなに苦しい時でも愚痴を言わず、決して諦めず、果敢に挑戦すること、これが我々の2019年度に推進していく運動・活動の普遍的な行動指針であります。

### 【世界に誇れる唯一無二の地域 かしまを創造する】

我々の住み暮らすかしま地域は、鹿島神宮をはじめとする歴史と文化、鹿島臨海工業地

帯を中心とした工業、全国でも有数の農業や漁業がバランスよく発達し、気候はとても温暖で、海、山、川に囲まれた自然豊かな地域でもあります。このように、地域資源が多く存在し、世界誇れる地域となる可能性を秘めているのです。

そして、我々は、これまでも行政、市民とともにより良い地域を目指して、地域活性、主権者意識の醸成、環境問題への取り組み等、その時代に合った政策を打ち立て実践と検証を繰り返し、様々なまちづくり運動を展開してまいりました。

しかしながら、我々は、このかしま地域の可能性を理解し、5年後、10年後に起こりうる問題を捉え、未来に行って見てきたかのようなビジョンを明確に描いているでしょうか。既に世界には、豊かで活力ある未来を目指しSDGsという明確な17の目標が示されています。不連続の連続である我々のまちづくり運動が一過性にならないためにも地域のビジョンを明確に描くことが重要なのです。そして、行政や企業、有識者や各種団体と連携し、青年会議所と市民を繋ぎ、破天荒な青年らしい政策と大胆な行動によって世界に誇れる唯一無二の地域 かしまを実現します。

また、4月には、統一地方選挙の鹿嶋市市議会議員選挙が予定されています。我々は、公開討論会を開催し、有権者が地域の未来を描き候補者を多くの情報の中から選択できる機会を創り、政治的無関心の打破に繋がる運動をしてまいりました。しかしながら、公開討論会への来場者や投票率は未だ低く、政治的関心は高いとは言い難い現状にあります。かしま地域に暮らす市民が、自分達の暮らす地域の未来ビジョンを明確に持つことが出来れば、このまちにどのような政策が必要なのかを理解し政策本位の政治選択に繋がります。

固定概念に捉われない新たな運営手法とより効果的な発信で、多くの市民の政治参画意識向上となる運動をしていきます。

#### 【2020年に繋ぐ地域が一体となる運動】

人口減少問題と地域間格差が加速度的に進んでいる近年において、東京一極集中を解消し、地方の人口減少に歯止めをかけ、地方の活性化を目指した地方創生が叫ばれています。このかしま地域には、全国の各市町村と比べてみても引けをとらない素晴らしい地域資源が存在しており、行政においてはこの地域資源を活かした地域活性化に取り組んでいます。そんな中、このかしま地域では2019年には茨城国民体育大会、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、日本中、世界中から多くの来訪者が、かしまの地へ訪れることが予想されます。我々は、このまたとない好機を最大限に活かし、行政や各種団体とともに更なる地域活性に繋がる運動を推し進めていきます。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた運動の調査・研究をしてまいります。

またその一方で、我々は茨城ブロック大会の開催に向けて取り組んでいます。開催する意義をメンバー一人ひとりへ浸透させ、想いを共有し一致団結していくことで我々しかできない大会の構築をしていきたいと考えます。茨城ブロック大会を開催する意義は、茨城やかしま地域のためであるとともに、何より組織のためであります。大会構築を通して、メンバーが成長を遂げることが出来れば、組織の成長に繋がるのです。これからも、我々は茨城ブロック大会開催の意義を共有し、2020年の運動へと繋げていきます。

### 【かしまに明るい未来をもたらす「突き抜けた人財」の創出】

今後、数年の間にテクノロジーの進化やグローバル化の進展、環境問題の深刻化など、これらの要因が世界を突き動かし人類の生き方が変化していくことが予測できます。さらに、人口知能やロボットの発達により、近い将来に約50%の人が仕事を失い、今の子供が大人になった時は、65%の人が今は存在しない仕事につくと言われております。私たちの活動基盤である産業や日々の生活も、社会的な変化に大きな影響を受け、さらに、スピードを増して変わっていきます。その変化をいち早く捉え、柔軟に対応していく必要があるのです。我々が市民とともに、主体的に明るい未来を創る気概を持ち、どのような変化でも対応できる能力を身に付けていかなければなりません。

また、あらゆる苦難に立ち向かい力強く生きていくためにも、未来へ夢を描き、人生へ希望を見出していくことが重要です。大なり、小なりの各々の自由な夢を持つことで、人生が希望で照らされ充実した日々になるのです。夢とは、自分が実現させたいと思う願望であり、希望とは、人生において必要不可欠なものだと考えます。夢がある者は希望があり、希望ある者には行動があります。より一層光輝く新たなかしま地域を創っていくために、あらゆる社会の変化に対応し、大きな夢を描き、革新的な行動を起す「突き抜けた人財」を創出します。

### 【日本人としての誇りと国際感覚を持つ人財の創出】

国家間での政治的対立や国民同士の排斥運動が起きているのを良く耳にしますが、実際に他国の方々とコミュニケーションを図り、相手を理解しようとするれば、必ずや国の垣根を超え、真の「友情」を構築できると考えます。

また我々が、日本人として脈々と受け継いできた「和の心」。それは、違いを受け入れる融和であり、互いを尊重し助け合う事であります。自分だけが満たされるのではなく、他人の喜びを自分の喜びと感ずることのできる素晴らしい「和の心」なのです。「和の心」をもつ人財を増やしていくためにも、自国の歴史認識を養い、自国を誇りに思えることが重要です。強烈な原体験の中で、我々が今生かされていることへの感謝を感じるとともに、日本とはどんな国なのか、日本人の本質とは何なのかという明確な国家観を有する人財を育成していきます。さらに、今後もより一層進むであろう社会のグローバル化の中において、国際交流を積み重ね友情を育みながら、お互いを尊重することによって相互理解を深め、様々な価値観を受け入れていくことが重要です。

そして、国際的な視野を醸成し積極果敢に国際協力や国際問題に取り組む世界で活躍する人財が創出されるのです。日本人としての誇りと国際感覚を兼ね備え、国際社会を舞台に活躍するリーダーシップを持った人財の行動によって、恒久的世界平和へ繋がることを確信しています。

### 【より強固な地域連携】

「鹿島地域は一つである」という趣意のもと、鹿島、神栖、波崎の3LOMが1998年に統合し、行政区の垣根を超えた人的交流を育みながら広域的な運動を行ってまいりました。統合20周年を迎えた我々は、創始の精神をしっかりと受け継ぎ、運動を起していく必要があります。また、大ビジョンとして「強い絆と心で繋がる素敵なかしまへ」を掲

げ、かしま地域に住み暮らす人々の郷土愛を育み、市民一人ひとりの心が繋がり、相互協力の精神や広域的なまちづくりの意識を醸成することを目指し、記念事業「波フェス」を立ち上げることができました。「波フェス」は、我々だけの事業ではありません。この地域のために活動しているまちづくり団体をはじめ市民の方々ともに想いを共有し、強い絆と心を繋げ、共に運動を推し進めていくことが重要です。

また、かしま地域には、多くの地域団体が存在し、環境保全や地域活性等の様々な活動をしております。また、「鹿嶋まつり」「ぶっちゃげ祭り」「きらっせ祭り」など、それぞれの地域を代表するお祭りや地域特性を活かした多くの地区事業が存在し、我々とともに運動を展開しています。広域的な心の繋がりを目指す我々にとって、その全てが欠かせないものであり、かしま地域をより良くしていくには、一人ひとりが当事者意識を持って行動することが重要なのです。我々は、これからも様々な地域団体との連携をより強固なものとし、かしま地域のために取り組んでいきます。

#### 【己を磨くことから始まる会員拡大】

我々は、青年会議所という組織に誇りを持ち、運動に可能性や価値を感じているのでしょうか。自国に誇りを持って生きることの重要性を訴える団体として、自分自身や組織にプライドを持つことが出来なければ、説得力を持つことは出来ないと考えます。

会員拡大こそが、最大の青年会議所運動と言われ脈々とその運動は途切れることなく続いています。設立当初から比べると会員の減少が止まりません。かしま青年会議所には、鹿嶋市、神栖市のメンバーが在籍しておりますが、特に神栖市の会員数が伸び悩んでいるのが現状です。かしま地域において広域的な運動を起す我々にとって、特に神栖市のメンバーの拡大は急務です。会員拡大ができないのは、青年会議所運動の趣旨が理解されていないのではなく、そこで活躍する我々の姿勢が理解されていないだけなのです。会員拡大の結果は、我々の運動に対する社会の評価そのものであり、我々の活動の最も分かりやすい成果であると考えます。会員拡大を進めるにおいて、我々は大切なことを見失っていないでしょうか。会員拡大とは、相手を口説くことに他ならず、それ以上でもそれ以下でもありません。青年会議所の運動を語り、各々の生き方に自信を持っていれば、自ずと説得力が身に付き、情熱を持って、ただひたすらに想いを伝えれば良いのです。そのためには、我々が己を律し、個を磨き、自己成長を遂げ魅力ある人財となることが必要なのです。

また、かしま青年会議所にも入会3年未満のアカデミーと呼ばれるメンバーが多く存在します。青年会議所という組織では、「JCはやったもん勝ち」という言葉を良く耳にしますが、まさにその通りであり、数多くの成長の機会がメンバー平等に存在します。積極的に参画すればするほど、原体験を得る事ができ自己成長に繋がるのです。そのフィールドは、JCIという世界にも広がります。日本青年会議所や国際青年会議所の行うアカデミー事業やプログラムを最大限に活かし、メンバーの成長の機会を創出していきます。

#### 【更なる自己成長を求める 日本青年会議所への出向】

我々の所属する青年会議所という組織には出向という制度が存在し、日本中から自己成長の機会を求め多くの同志たちが集い研鑽を積んでいます。日本青年会議所や各協議会への出向を通して、自己の成長はもちろんのこと、広域的な同志との出逢いやスケールメリ

ットを活かした事業構築など、必ずや何物にも代えがたい経験になると確信しています。LOMの活動では普段見えないであろう広域的な社会問題とその解決経験を通して、自己成長を遂げ、その自己成長を遂げた人財が、組織や地域に変革という新たな息吹を吹き込むことで、更なる進化を遂げていき、進化を遂げた我々の運動が、必ずや地域に変革を与えていくことができるのです。この好循環のスパイラルが繰り返されることによって、明るい豊かな未来へと紡がれていくのです。この青年会議所という学び舎を最大限に活かし、更なる自己成長を求め勇気を持って新たな一步を踏み出すことが重要なのです。

また、かしま青年会議所を代表して出向するメンバーは、不安とプレッシャーの中にも勇気と責任感を持ち組織の看板を背負い、出向していることを忘れてはなりません。我々メンバー全員が、出向者に心を寄せ力強く後押しをしていくことで、メンバーの更なる成長はもちろんのこと、組織の成長にも繋がるのです。さらには、日本青年会議所の行う運動には、スケールメリットを活かしたLOMでは得られない原体験が多く存在します。

特に、京都会議やサマーコンファレンスといった事業は、普段受けられないであろう講師のセミナーやフォーラムが開催され、多くの学びや気づきの機会があるのです。また、メンバー同士が、同じ体験をする機会がかけがえのないものであり、相互理解を深め、友情を築いていくことにも繋がります。平等にある成長の機会を最大限に活用するために、意義・目的を伝えることで、積極的な参加を促します。

#### 【運動を牽引する規律のある組織運営】

我々は、常に公共の利益のために運動を起し、公共の利益こそが青年会議所の利益です。そして、青年会議所運動は、名前にもある通り会議で始まり会議で終わります。メンバーの「個」を結集し、一人ひとりの多様な価値観を侃侃諤諤ぶつけ合い、また互いに相寄り理解し合うことで、結束した繋がりを持った強固な信頼関係を構築することができるのです。そして、青年会議所という組織において、我々の運動を力強く推し進めていくには、盤石な会議運営が不可欠であり、より質の高い資料作成やメンバーの運動・事業に対する強い想いが重要なのです。

また、地域に対して運動を起す我々が組織のルールを守れなければ、公のルールを守れるはずがなく、社会的な信用を失う事にもなりかねません。組織の基本ルールを今一度再認識するとともに、メンバーが自分の役職と担いを明確に認識し統率の取れた組織を目指しガバナンスの強化にも取り組んでいきます。さらに、メンバーが一致団結するための心がけを常に忘れず、自己成長の機会を与え続けるべく意識付けや参加意欲に繋がる設えを考え発信していきます。

我々の運動を対外に向けて発信し地域の理解を得ることで、青年会議所のブランディングを図り、地域から必要とされる組織を目指します。そして、メンバー誰もが、当たり前のことを当たり前実践でき、積極的に参画できるよう各種マニュアルを精査していきます。

#### 【組織を守る財政規則審査】

我々が、公益社団法人格を取得してから10年が経過しました。公益の組織として知識の取得や運営は着実に身に付いていますが、未だ公益社団法人格の維持に関して盤石とは

言い難い状況であります。我々の運動を推し進めていくには、一つひとつの事業において明確な判断や確認を怠ることのないよう透明性のある運営が我々の運動の基礎となります。公益に対する組織としての基本ルールを今一度再認識し、決して妥協することのない誠実な財政管理に努め、メンバーと地域から預かった大切な財源が有効に公共の利益のため使われるようしっかりと審査していきます。

我々の事業・運動が、素晴らしいものであるならば、自信を持って積極的に外部資金を導入していくべきだと考えます。単にお金を集めるだけではなく、地域に貢献したいと思う市民や我々の運動を評価して頂ける行政等を巻き込み、強固な信頼関係を築いていく事が重要なのです。

また、現代における情報発信のあり方は、ICT化の進化により、容易に世界中へ発信することが可能になりました。我々の運動を外部に向けて発信していくことは、必要不可欠であり組織のブランディングを高めていくことにも繋がってきます。しかしその反面、コンプライアンス違反や不適切な発信により組織の存続を揺るがすほどのリスクがあるのを忘れてはなりません。これからも、公益社団法人としての透明化と財務体質の健全化並びにコンプライアンスの徹底といった高い精度の運営に取り組んでいきます。

#### 【むすびに】

「あなたは、何のために青年会議所の活動をしていますか？」

私には、命を懸けてでも守りたい大切なものがあるのです。そのためには、自分という人間が、必ずや自己成長を遂げ強くならなければならないのです。

青年会議所とは、人生を生き抜く力を体得する学び舎であり何物にも代えがたい自己成長の機会が必ずや存在します。青年会議所を通して起こる全てを前向きに捉え、どんなに苦しい時でも喜んで受け入れ自己の成長に繋げていきましょう。自らを変えられないものに地域を変えられるはずがありません。世のため人のために尽くすことが自分のために繋がっていき、その先に必ずや「明るい豊かな社会」が待っているのです。

我々の運動で、必ず地域は変わるということを忘れてはなりません。当初の計画とは大きく違い結果的に思ったほど成果が上がらなかつたり、素晴らしい事業を開催しても市民が関心を示さなかつたり、事業を創り上げる過程において孤独を感じ投げ出したくなつたりして、落ち込んだこともあるでしょう。これは、青年会議所運動に対して真摯に向き合ったことのあるJAYCEEなら誰しもが経験したことがあると思います。

しかし、卑屈になつたり、嘆いたり、自信を無くす必要などはないのです。明るい豊かな社会の実現のためにと考え、全力で取り組み、運動に費やした時間や労力は必ず報われる日がくるのです。そして、一度やると決めたならば、終始一貫やってやってやり抜けば、必ずや打つ手は無限に見えてくるのです。世のため、人のため、自分のために、我々の信じる運動を一瞬たりとも止めることなく力強く推し進めていきましょう。

「打つ手は無限」

すばらしい名画よりも、  
とてもすてきな宝石よりも  
もっともっと大切なものを私は持っている。

どんな時でも、どんな苦しい場合でも  
愚痴を言わない。  
参ったと泣きごとを言わない。

何か方法はないだろうか、  
何か方法はあるはずだ。  
周囲を見回してみよう。

いろんな角度から眺めてみよう。  
人の知恵も借りてみよう。  
必ず何とかなるものである。

なぜなら打つ手は常に無限であるからだ。

滝口 長太郎

スローガン

打つ手は無限  
破天荒な行動で、かしまを変えよう！